

(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2012 年 12 月 13 日(13.12.2012)



(10) 国際公開番号

WO 2012/169075 A1

- (51) 国際特許分類:
G06Q 10/00 (2012.01)
- (21) 国際出願番号: PCT/JP2011/063401
- (22) 国際出願日: 2011 年 6 月 10 日(10.06.2011)
- (25) 国際出願の言語: 日本語
- (26) 国際公開の言語: 日本語
- (71) 出願人 (米国を除く全ての指定国について): 株式会社 P F U (PFU LIMITED) [JP/JP]; 〒9291192 石川県かほく市宇野気ヌ 9 8 番地の 2 Ishikawa (JP).
- (72) 発明者; および
- (75) 発明者/出願人 (米国についてのみ): 高柳 佳世 (TAKAYANAGI, Kayo) [JP/JP]; 〒9291192 石川県かほく市宇野気ヌ 9 8 番地の 2 株式会社 P F U 内 Ishikawa (JP). 北川 光一 (KITAGAWA, Koichi) [JP/JP]; 〒9291192 石川県かほく市宇野気ヌ 9 8 番地の 2 株式会社 P F U 内 Ishikawa (JP). 稲荷教司 (INARI, Kyoji) [JP/JP]; 〒9291192 石川県かほく市宇野気ヌ 9 8 番地の 2 株式会社 P F U 内 Ishikawa (JP).
- (74) 代理人: 伊藤 剣太, 外 (ITO, Kenta et al.); 〒1006020 東京都千代田区霞が関三丁目 2 番 5 号 霞が関ビルディング 酒井国際特許事務所 Tokyo (JP).
- (81) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IS, JP, KE, KG, KM, KN, KP, KR, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PE, PG, PH, PL, PT, RO, RS, RU, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, ZA, ZM, ZW.
- (84) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI

[続葉有]

(54) Title: MONETARY GOAL MANAGEMENT DEVICE, MONETARY MANAGEMENT METHOD, AND MONETARY GOAL MANAGEMENT PROGRAM

(54) 発明の名称: 金額目標管理装置、金額目標管理方法、および金額目標管理プログラム

[図2]

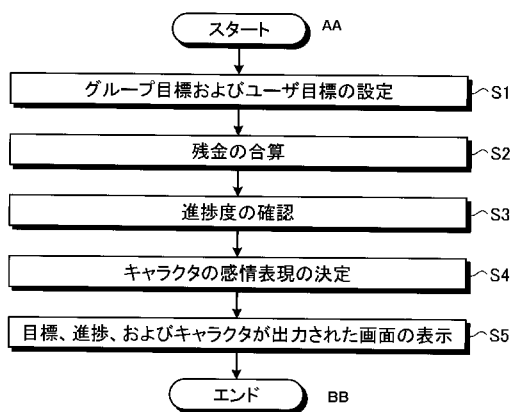


FIG. 2:
S1 Set group goal and user goal
S2 Total remaining amount
S3 Identify degree of progress
S4 Determine emotional expression of character
S5 Display screen to which goal, progress, and character are outputted
AA Start
BB End

(57) Abstract: The present invention addresses the problem of providing a monetary goal management device, a monetary management method, and a monetary goal management program that make it possible to manage a money-related goal (e.g., expenditure-reduction goal or saving goal) in comprehensive group-based control in household bookkeeping, and as a result, make it possible to effectively encourage sustained behavior (e.g., cutting expenditures or saving money, and operating household bookkeeping) in each member user toward attaining the goal. The present embodiment comprises: setting a monetary value-related group goal for a preset group comprising a plurality of users registered in a bookkeeping management application; totaling the remaining balance of all member users constituting the group who are registered with the bookkeeping management application; identifying the state of progress on the basis of the set group goal and the totaled remaining balance; and displaying the identified state of progress on a display.

(57) 要約: 家計簿管理において、お金に関する目標 (例えば節約目標または貯蓄目標など) をグループという総合的な括りで管理することができるようになり、その結果、各々の構成ユーザに、当該目標の達成に向けた継続的な行動 (例えばお金の節約もしくは貯蓄、および家計簿の運用など) を効果的に促すことができる金額目標管理装置、金額目標管理方法、および金額目標管理プログラムを提供することを課題とする。本実施形態によれば、家計簿管理アプリケーションに登録されている複数のユーザで構成される予め設定されたグループに対する、金額に関するグループ目標を設定し、家計簿管理アプリケーションに登録されている、グループを構成するユーザである全ての構成ユーザの残高を合算し、設定されたグループ目標および合算された残高に基づいて、グループ目標の進捗状況を確認し、確認された進捗状況を表示部に表示する。

継続的な行動 (例えばお金の節約もしくは貯蓄、および家計簿の運用など) を効果的に促すことができる金額目標管理装置、金額目標管理方法、および金額目標管理プログラムを提供することを課題とする。本実施形態によれば、家計簿管理アプリケーションに登録されている複数のユーザで構成される予め設定されたグループに対する、金額に関するグループ目標を設定し、家計簿管理アプリケーションに登録されている、グループを構成するユーザである全ての構成ユーザの残高を合算し、設定されたグループ目標および合算された残高に基づいて、グループ目標の進捗状況を確認し、確認された進捗状況を表示部に表示する。



(BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG). 添付公開書類:

— 国際調査報告 (条約第 21 条(3))

明 細 書

発明の名称：

金額目標管理装置、金額目標管理方法、および金額目標管理プログラム 技術分野

[0001] 本発明は、家計簿管理において、お金に関する目標（例えば節約目標または貯蓄目標など）を管理する金額目標管理装置、金額目標管理方法、および金額目標管理プログラムに関する。

背景技術

[0002] 家族内において、家計簿の管理は、家計簿管理アプリケーションを用いて、各人が個々に管理したり、家族の代表者が管理したりするといった、個人主体のものである。

[0003] なお、家計簿管理に関する先行技術文献として、例えば特許文献1および2が挙げられる。特許文献1には、家計管理に必要な支出と収支の管理が一枚の表にまとめられた家計管理表に関する技術が開示されている。特許文献2には、ゲーム化した表示画面をインターフェースにしてユーザに家計データを入力させ、入力された家計データを家計管理サーバに送信し、家計管理サーバに送信された家計データを家計データベースに登録する家計管理支援方法等に関する技術が開示されている。

先行技術文献

特許文献

[0004] 特許文献1：特開平11-59025号公報

特許文献2：特開2003-76846号公報

発明の概要

発明が解決しようとする課題

[0005] しかしながら、これまでの家計簿管理では、お金に関する目標（例えば節約目標または貯蓄目標など）を、例えば家族などのグループという総合的な括りで管理することはできなかった、という問題点があった。

[0006] 本発明は、上記に鑑みてなされたものであって、家計簿管理において、お金に関する目標（例えば節約目標または貯蓄目標など）をグループという総合的な括りで管理することができるようになり、その結果、当該グループを構成する各々のユーザに、当該目標の達成に向けた継続的な行動（例えばお金の節約もしくは貯蓄、および家計簿の運用など）を効果的に促すことができる金額目標管理装置、金額目標管理方法、および金額目標管理プログラムを提供することを目的とするものである。

課題を解決するための手段

[0007] 上述した課題を解決し、目的を達成するために、制御部と表示部とを備え、前記制御部は、家計簿管理アプリケーションに登録されている複数のユーザで構成されるグループに対する、金額に関するグループ目標を設定する設定手段と、前記グループを構成する前記ユーザである全ての構成ユーザの、前記家計簿管理アプリケーションに登録されている残高を合算する合算手段と、前記設定手段で設定された前記グループ目標および前記合算手段で合算された前記残高に基づいて、当該グループ目標の進捗状況を確認する確認手段と、前記確認手段で確認された前記進捗状況を前記表示部に表示する進捗表示実行手段と、を備えたこと、を特徴とする。

[0008] また、本発明にかかる金額目標管理装置は、前記の金額目標管理装置において、前記設定手段は、前記構成ユーザに対する、金額に関するユーザ目標を設定し、前記確認手段は、前記設定手段で設定された前記構成ユーザに対する前記ユーザ目標および前記家計簿管理アプリケーションに登録されている当該構成ユーザの前記残高に基づいて、当該ユーザ目標の前記進捗状況を確認すること、を特徴とする。

[0009] また、本発明にかかる金額目標管理装置は、前記の金額目標管理装置において、前記制御部は、前記確認手段で確認された前記進捗状況に基づいて、感情表現がデザインされたキャラクタの当該感情表現を決定する決定手段をさらに備え、前記進捗表示実行手段は、前記決定手段で決定された前記感情表現の前記キャラクタを前記表示部に表示すること、を特徴とする。

[0010] また、本発明は金額目標管理方法に関するものであり、本発明にかかる金額目標管理方法は、制御部と表示部とを備えた金額目標管理装置の前記制御部で実行される、家計簿管理アプリケーションに登録されている複数のユーザで構成されるグループに対する、金額に関するグループ目標を設定する設定ステップと、前記グループを構成する前記ユーザである全ての構成ユーザの、前記家計簿管理アプリケーションに登録されている残高を合算する合算ステップと、前記設定ステップで設定された前記グループ目標および前記合算ステップで合算された前記残高に基づいて、当該グループ目標の進捗状況を確認する確認ステップと、前記確認ステップで確認された前記進捗状況を前記表示部に表示する進捗表示実行ステップと、を含むこと、を特徴とする。

[0011] また、本発明は金額目標管理プログラムに関するものであり、本発明にかかる金額目標管理プログラムは、制御部と表示部とを備えた金額目標管理装置の前記制御部に実行させるための、家計簿管理アプリケーションに登録されている複数のユーザで構成されるグループに対する、金額に関するグループ目標を設定する設定ステップと、前記グループを構成する前記ユーザである全ての構成ユーザの、前記家計簿管理アプリケーションに登録されている残高を合算する合算ステップと、前記設定ステップで設定された前記グループ目標および前記合算ステップで合算された前記残高に基づいて、当該グループ目標の進捗状況を確認する確認ステップと、前記確認ステップで確認された前記進捗状況を前記表示部に表示する進捗表示実行ステップと、を含むこと、を特徴とする。

[0012] また、本発明は記録媒体に関するものであり、本発明にかかるコンピュータ読み取り可能な記録媒体は、本発明にかかる前記の金額目標管理プログラムを記録したことを特徴とする。

発明の効果

[0013] 本発明によれば、家計簿管理アプリケーションに登録されている複数のユーザで構成されるグループに対する、金額に関するグループ目標を設定し、

グループを構成するユーザである全ての構成ユーザの、家計簿管理アプリケーションに登録されている残高を合算し、設定されたグループ目標および合算された残高に基づいて、当該グループ目標の進捗状況を確認し、確認された進捗状況を表示部に表示するので、家計簿管理において、お金に関する目標（例えば節約目標または貯蓄目標など）をグループという総合的な括りで管理することができるようになり、その結果、当該グループを構成する各々のユーザに、当該目標の達成に向けた継続的な行動（例えばお金の節約もしくは貯蓄、および家計簿の運用など）を効果的に促すことができるという効果を奏する。

[0014] また、本発明によれば、構成ユーザに対する、金額に関するユーザ目標を設定し、設定された構成ユーザに対するユーザ目標および家計簿管理アプリケーションに登録されている当該構成ユーザの残高に基づいて、当該ユーザ目標の進捗状況を確認するので、当該グループを構成する各々のユーザに、当該目標の達成に向けた継続的な行動（例えばお金の節約もしくは貯蓄、および家計簿の運用など）をより効果的に促すことができるという効果を奏する。

[0015] また、本発明によれば、確認された進捗状況に基づいて、感情表現がデザインされたキャラクタの当該感情表現を決定し、決定された感情表現のキャラクタを表示部に表示するので、当該グループを構成する各々のユーザに、当該目標の達成に向けた継続的な行動（例えばお金の節約もしくは貯蓄、および家計簿の運用など）をより効果的に促すことができるという効果を奏する。

図面の簡単な説明

[0016] [図1]図1は、金額目標管理装置の構成の一例を示すブロック図である。

[図2]図2は、金額目標管理装置で実行される金額目標管理処理の一例を示すフローチャートである。

[図3]図3は、家計簿選択画面の一例を示す図である。

[図4]図4は、家計簿状況画面の一例を示す図である。

[図5]図5は、目標進捗画面の一例を示す図である。

発明を実施するための形態

[0017] 以下に、本発明にかかる金額目標管理装置、金額目標管理方法、および金額目標管理プログラムの実施形態を図面に基づいて詳細に説明する。なお、本実施形態により本発明が限定されるものではない。

[0018] [1. 構成]

本実施形態にかかる金額目標管理装置の構成を、図1を参照して説明する。図1は、金額目標管理装置の構成の一例を示すブロック図である。

[0019] 金額目標管理装置100は、例えば市販のパーソナルコンピュータ、スマートフォン、またはタブレット端末などの情報処理装置であり、制御部102、通信インターフェース部104、記憶部106、および入出力インターフェース部108を備えている。金額目標管理装置100には、少なくとも家計簿アプリケーションがインストールされている。金額目標管理装置100が備えている各部は、任意の通信路を介して通信可能に接続されている。

[0020] 通信インターフェース部104は、ルータ等の通信装置および専用線等の有線または無線の通信回線を介して、金額目標管理装置100を、外部の装置またはネットワークに通信可能に接続する。通信インターフェース部104は、他の装置と通信回線を介してデータを通信する機能を有する。

[0021] 入出力インターフェース部108には、入力装置112および出力装置114が接続されている。出力装置114には、モニタ（家庭用テレビを含む）の他、スピーカやプリンタを用いることができる。入力装置112には、キーボード、マウスおよびマイクの他、マウスと協働してポインティングデバイス機能を実現するモニタを用いることができる。なお、以下では、出力装置114をモニタ114とし、入力装置112をキーボード112またはマウス112として記載する場合がある。

[0022] 記憶部106は、家計簿データ記憶部106aおよび目標データ記憶部106bを備えている。記憶部106には、OS（Operating System）と協働してCPU（Central Processing U

n i t) に命令を与えて各種処理を行うためのコンピュータプログラムなどが記録されている。記憶部 106 として、例えば、RAM (Random Access Memory) ・ROM (Read Only Memory) 等のメモリ装置、ハードディスクのような固定ディスク装置、フレキシブルディスク、または光ディスク等を用いることができる。

[0023] 家計簿データ記憶部 106 a には、家計簿管理アプリケーションの管理下に置かれている、各ユーザの家計簿データ（例えば、費目（例えば食費または雑費など）、各費目に対応する実績（支出）、各費目に対応する予算、および各費目に対応する残金（残高）などを含む）が格納されている。

[0024] 目標データ記憶部 106 b は、金額に関するグループ目標（例えば目的、目標金額、および目標達成時期（積み立て開始月日および積み立て終了月日を含む）などを含む節約目標または貯蓄目標など）および金額に関するユーザ目標（例えば、目標金額に対する分担金額または分担割合などを含む）を格納するためのものである。グループ目標は、後述する設定部 102 a が、家計簿管理アプリケーションで自身の家計簿を管理している複数のユーザで構成されるグループ（例えば家族または友人同士など）に対して設定したものである。ユーザ目標は、後述する設定部 102 a が、当該グループを構成するユーザである各構成ユーザ（例えば家族の構成員または個々の友人など）に対して設定したものである。

[0025] 制御部 102 は、金額目標管理装置 100 を統括的に制御する CPU 等から成る。制御部 102 は、制御プログラムと各種の処理手順等を規定したプログラムと所要データとを格納するための内部メモリを有し、これらプログラムに基づいて種々の処理を実行するための情報処理を行う。制御部 102 は、設定部 102 a、合算部 102 b、確認部 102 c、進捗表示実行部 102 d、および決定部 102 e を備えている。

[0026] 設定部 102 a は、家計簿管理アプリケーションで自身の家計簿を管理している複数のユーザで構成されるグループに対するグループ目標を設定する。なお、設定部 102 a は、当該グループに含まれる構成ユーザに対するユ

ーザ目標を設定してもよい。

[0027] 合算部 102b は、グループに含まれる全ての構成ユーザの家計簿データに基づいて、当該全ての構成ユーザの残金（残高）を合算する。

[0028] 確認部 102c は、設定部 102a で設定されたグループ目標および合算部 102b で合算された残金に基づいて、当該グループ目標の進捗状況（例えばグループ目標の達成度または進捗度など）を確認する。なお、確認部 102c は、設定部 102a で設定された各構成ユーザに対するユーザ目標および各構成ユーザの家計簿データに含まれている残金に基づいて、各ユーザ目標の進捗状況（例えばユーザ目標の達成度または進捗度など）を確認してもよい。

[0029] 進捗表示実行部 102d は、確認部 102c で確認された進捗状況をモニタ 114 に表示する。なお、進捗表示実行部 102d は、決定部 102e で決定された感情表現（例えば喜怒哀楽または機嫌の状態など）がデザインされたキャラクタをモニタ 114 に表示してもよい。

[0030] 決定部 102e は、確認部 102c で確認された進捗状況に基づいて、感情表現がデザインされたキャラクタの当該感情表現を決定する。

[0031] [2. 処理]

上述した構成の金額目標管理装置 100 で実行される金額目標管理処理の一例について、図 2 から図 5 を参照して説明する。

[0032] なお、本説明では、ユーザ A、ユーザ B、およびユーザ C の 3 名が家計簿管理アプリケーションを用いて各自で家計簿管理を行っており、家計簿データ記憶部 106a にはこの 3 名の家計簿データが格納されていることを前提とする。また、本説明では、この 3 名が 1 つのグループを構成する構成ユーザとして登録されていることを前提とする。また、本説明では、ユーザ A がグループ目標等の設定および確認等を行うものとする。

[0033] ユーザ A は、入力装置 112 を操作して、制御部 102 がモニタ 114 に予め表示した図 3 に示す家計簿選択画面 MA に設けられている領域 MA1、領域 MA2、および領域 MA3 のうち、当該ユーザ A に対応する領域 MA1

を選択する。

[0034] ここで、領域MA 1、領域MA 2、および領域MA 3は、構成ユーザに自身の家計簿の表示を選択させるためのものである。具体的には、領域MA 1はユーザAの家計簿の表示を選択させるためのものであり、領域MA 2はユーザBの家計簿の表示を選択させるためのものであり、領域MA 3はユーザCの家計簿の表示を選択させるためのものである。なお、家計簿選択画面MAは、或る構成ユーザ（例えばユーザA）が他の構成ユーザ（例えばユーザBまたはユーザC）に対応する領域を選択しても当該他の構成ユーザの家計簿は表示されないように設計されたものであることが好ましい。

[0035] 家計簿選択画面MAに設けられている何れかの領域（本説明では図3に示す領域MA 1）が選択されると、制御部102は、当該選択された領域に対応する構成ユーザ（本説明ではユーザA）の家計簿データを家計簿データ記憶部106aから読み出す。制御部102は、読み出された家計簿データが出力されている図4に示す家計簿状況画面MBを、モニタ114に表示する。

[0036] ここで、家計簿状況画面MBは、現時点での家計簿の状況を表示させるための領域MB 1を含んでいる。領域MB 1は、文字「状況」が記されているタグ（状況タグ）と、グループ目標等の設定および確認を選択させるため、文字「目標」が記されているタグ（目標タグ）と、を含んでいる。領域MB 1には、読み出された家計簿データに含まれている費目、各費目に対応する実績（支出）、各費目に対応する予算、および各費目に対応する残金（残高）が、所定の形式（例えば表など）で表示される。

[0037] ユーザAは、入力装置112を操作して、領域MB 1に含まれている目標タグを選択する。

[0038] 目標タグが選択されると、制御部102は、目標データ記憶部106bに、ユーザAが構成ユーザとして含まれているグループのグループ目標および当該グループの各構成ユーザ（本説明ではユーザA、ユーザB、およびユーザC）のユーザ目標が格納されているか否かを確認する。制御部102は、

当該確認の結果が「格納されている」というものでなかった場合には進捗表示実行部１０２ｄを動作させ、「格納されている」というものであった場合には合算部１０２ｂを動作させる。

[0039] [ステップＳ１：グループ目標およびユーザ目標の設定]

確認の結果が「格納されている」というものでなかった場合、進捗表示実行部１０２ｄは、図５に示す目標進捗画面ＭＣを生成し、生成した目標進捗画面ＭＣをモニタ１１４に表示する。

[0040] ここで、図５に示す目標進捗画面ＭＣは、グループ目標および各ユーザ目標を設定および表示させるための領域ＭＣ１と、グループ目標および各ユーザ目標の進捗状況（達成状況）を表示させるための領域ＭＣ２と、を含んでいる。領域ＭＣ１は、グループ目標および各ユーザ目標の設定（登録）を選択させるための設定ボタンを含んでいる。なお、ステップＳ１で（グループ目標およびユーザ目標が設定されていないときに）表示される目標進捗画面ＭＣには、領域ＭＣ１にグループ目標および各ユーザ目標に関する具体的な文字（図５に示す文字「沖縄旅行」）および数字（図５に示す数字「１００，０００円」など）は表示されておらず、また領域ＭＣ２に進捗状況（図５に示す棒グラフおよびキャラクタなど）は表示されていない。

[0041] ユーザＡは、グループ目標を設定するため、入力装置１１２を操作して、目的、目標金額、および目標達成時期（積み立て開始月日および積み立て終了月日を含む）を、グループ目標として領域ＭＣ１に入力する。ユーザＡは、各構成ユーザのユーザ目標を設定するため、入力装置１１２を操作して、当該ユーザＡの分担金額または分担割合と予め決めておいた残りの構成ユーザ（本説明ではユーザＢおよびユーザＣ）の分担金額または分担割合とを、各構成ユーザのユーザ目標として領域ＭＣ１に入力する。ユーザＡは、これらの入力をおこなった後、入力装置１１２を操作して設定ボタンを押下する。

[0042] 設定ボタンが押下されると、設定部１０２ａは、領域ＭＣ１に入力されている目的、目標金額、および目標達成時期を、グループ目標として目標デー

タ記憶部 106b に格納する。また、設定ボタンが押下されると、設定部 102a は、領域 MC 1 に入力されている各分担金額または各分担割合を、各構成ユーザのユーザ目標として、グループ目標と関連付けて目標データ記憶部 106b に格納する。

[0043] [ステップ S 2 : 残金の合算]

確認の結果が「格納されている」というものであった場合、合算部 102b は、ユーザ A 以外の全ての構成ユーザ（本説明ではユーザ B およびユーザ C）の家計簿データを、家計簿データ記憶部 106a から読み出す。合算部 102b は、読み出されたユーザ A、ユーザ B、およびユーザ C の家計簿データに基づいて、全構成ユーザの残金を合算する。

[0044] [ステップ S 3 : 進捗度の確認]

確認部 102c は、ユーザ A が構成ユーザとして含まれているグループのグループ目標および当該グループの各構成ユーザ（本説明ではユーザ A、ユーザ B、およびユーザ C）のユーザ目標を、目標データ記憶部 106b から読み出す。確認部 102c は、読み出されたグループ目標およびステップ S 2 で算出された残金の合算値に基づいて、グループ目標の進捗度（達成度）を算出する。確認部 102c は、読み出されたグループ目標および各構成ユーザのユーザ目標ならびに読み出された各構成ユーザ（本説明ではユーザ A、ユーザ B、およびユーザ C）の家計簿データに基づいて、各ユーザ目標の進捗度（達成度）を確認する。

[0045] 例えば、確認部 102c は、グループ目標の進捗度を、式「“残金の合算値” ÷ “グループ目標に含まれている目標金額”」に基づいて算出してもよい。また、例えば、確認部 102c は、各構成ユーザのユーザ目標の進捗度を、式「“家計簿データに含まれている残金” ÷ “ユーザ目標に含まれている分担金額”」または式「“家計簿データに含まれている残金” ÷ (“ユーザ目標に含まれている分担割合” × “グループ目標に含まれている目標金額”）」に基づいて算出してもよい。なお、式で計算された数値が大きければ大きいほど、進捗度が高いと判断される。

[0046] なお、確認部102cは、グループ目標および各ユーザ目標の達成予定月日を計算してもよい。例えば、確認部102cは、全ての構成ユーザが現時点までの積み立てペースを維持し続けると仮定して、グループ目標の達成予定月日を、式「{(“グループ目標に含まれている目標金額” - “残金の合算値”) ÷ (“残金の合算値” ÷ “目標達成時期に含まれている積み立て開始月日から現時点までの経過日数”)} + 現時点の月日」に基づいて計算してもよい。また、例えば、確認部102cは、構成ユーザが現時点までの積み立てペースをこのまま維持し続けると仮定して、ユーザ目標の達成予定日を、式「{(“ユーザ目標に含まれている分担金額” - “家計簿データに含まれている残金”) ÷ (“家計簿データに含まれている残金” ÷ “目標達成時期に含まれている積み立て開始月日から現時点までの経過日数”)} + 現時点の月日」に基づいて計算してもよい。

[0047] また、確認部102cは、目標達成時期に含まれている積み立て終了月日(期日)までにグループ目標および各ユーザ目標を達成するための月割りの目標金額を計算してもよい。例えば、確認部102cは、グループ目標に対する月割りの目標金額を、式「{(“グループ目標に含まれている目標金額” - “残金の合算値”) ÷ “現時点から目標達成時期に含まれている積み立て終了月日までの残日数”} × 30」に基づいて計算してもよい。また、例えば、確認部102cは、ユーザ目標に対する月割りの目標金額を、式「{(“ユーザ目標に含まれている分担金額” - “家計簿データに含まれている残金”) ÷ “現時点から目標達成時期に含まれている積み立て終了月日までの残日数”} × 30」に基づいて計算してもよい。

[0048] [ステップS4：キャラクタの感情表現の決定]

決定部102eは、ステップS3で確認されたグループ目標の進捗度および各ユーザ目標の進捗度に基づいて、感情表現がデザインされたキャラクタの当該感情表現を、グループ目標および各ユーザ目標に対して決定する。

[0049] 例えば、互いに異なる感情表現(例えば喜怒哀楽または機嫌の状態など)がデザインされた複数のキャラクタが予め用意されており、且つ各キャラク

タと関連付けて数値範囲（閾値）が予め複数設定されている場合、決定部 102e は、複数の数値範囲の中から進捗度の数値が含まれるものを判定し、当該数値が含まれると判定された数値範囲と関連付けられているキャラクタを、当該進捗度に応じた感情表現のキャラクタとして決定する。

[0050] [ステップ S5：目標、進捗、およびキャラクタが出力された画面の表示]

進捗表示実行部 102d は、図 5 に示す目標進捗画面 MC を生成し、生成した目標進捗画面 MC に含まれている領域 MC1 に、ステップ S3 で読み出されたグループ目標および各ユーザ目標を出力する。

[0051] 進捗表示実行部 102d は、目標進捗画面 MC に含まれている領域 MC2 に、ステップ S2 で算出された残金の合算値およびステップ S3 で読み出されたグループ目標に含まれている目標金額を、当該合算値と当該目標金額との差分が容易に視認されるようなグラフ（例えば棒グラフまたは円グラフなど）で図 5 に示すような位置に出力する。

[0052] 進捗表示実行部 102d は、目標進捗画面 MC に含まれている領域 MC2 に、ステップ S2 で読み出された各構成ユーザの家計簿データに含まれている残金およびステップ S3 で読み出された各構成ユーザのユーザ目標に含まれている分担金額を、当該残金と当該分担金額との差分が容易に視認されるようなグラフ（例えば棒グラフまたは円グラフなど）で構成ユーザごとに図 5 に示すような位置に出力する。

[0053] 進捗表示実行部 102d は、目標進捗画面 MC に含まれている領域 MC2 に、ステップ S4 で感情表現が決定された複数のキャラクタ（具体的には、グループに対応するキャラクタおよび各構成ユーザに対応するキャラクタ）を、当該領域 MC2 に出力されているグラフとの対応が容易に視認されるような位置（図 5 に示すような位置など）に出力する。

[0054] 進捗表示実行部 102d は、これらの出力が行われた後の目標進捗画面 MC を、モニタ 114 に表示する。これにより、図 5 に示す目標進捗画面 MC がモニタ 114 に表示される。

[0055] [3. 本実施形態のまとめ、及び他の実施形態]

以上、本実施形態によれば、家計簿管理において、グループ（例えば家族全員（複数ユーザ）など）にまたがる、特定の期間までに貯めたい金額目標（例えば、年末に海外旅行に行くという目的のために４月から年末までに５０万円を貯めるなどといった節約目標など）を設定し、構成員の各個人の残高（収支の総収入額と総支出額の差額）を合算し、グループにまたがる金額目標に対する進捗度または達成度を管理する。また、本実施形態によれば、グループにまたがる金額目標に対して各構成ユーザの金額目標を設定し、各構成ユーザの金額目標に対する進捗度または達成度を管理する。また、本実施形態によれば、進捗度または達成度に応じて、家計簿管理アプリケーション上で表示されるキャラクタの機嫌、仕草、動作などの感情表現を変化させる。

[0056] これにより、家計簿管理において、お金に関する目標（例えば節約目標または貯蓄目標など）をグループという総合的な括りで管理することができるようになり、その結果、各々の構成ユーザに、当該目標の達成に向けた継続的な行動（例えばお金の節約もしくは貯蓄、および家計簿の運用など）を効果的に促すことができる。また、グループ全体としてのグループ目標（節約目標）の設定と当該グループ目標に対する各構成ユーザのユーザ目標（分担目標または節約目標）の設定が可能となる。また、複数人（例えば家族全員）の目的（例えば、年末までに２０万円貯めて旅行に行く）のために、各人に節約目標を割り振って設定し、目標の進捗を総合的に管理することができる。

[0057] また、各構成ユーザは、日々の家計簿を記入しながら、その時点でのグループ全体のグループ目標および各構成ユーザのユーザ目標の進捗度または達成度を確認することができる。また、各構成ユーザは、家計簿管理アプリケーション上に表示されたキャラクタの感情表現の状態から、グループ目標および各構成ユーザのユーザ目標の進捗度または達成度の状況を一目で確認することができる。そして、これらの結果、各構成ユーザに、継続的な家計簿（入／出金管理）の運用および節約促進に対する動機または楽しみなどを与

えることができる。

[0058] さらに、本発明は、上述した実施形態以外にも、請求の範囲に記載した技術的思想の範囲内において種々の異なる実施の形態にて実施されてよいものである。

[0059] 例えば、金額目標管理装置 100 がスタンドアローンの形態で処理を行う場合を一例に説明したが、金額目標管理装置 100 は、クライアント端末（金額目標管理装置 100 とは別筐体である）からの要求に応じて処理を行い、その処理結果を当該クライアント端末に返却するようにしてもよい。

[0060] また、実施形態において説明した各処理のうち、自動的に行われるものとして説明した処理の全部または一部を手動的に行うこともでき、あるいは、手動的に行われるものとして説明した処理の全部または一部を公知の方法で自動的に行うこともできる。

[0061] このほか、上記文献中や図面中で示した処理手順、制御手順、具体的名称、各処理の登録データや検索条件等のパラメータを含む情報、画面例、データベース構成については、特記する場合を除いて任意に変更することができる。

[0062] また、金額目標管理装置 100 に関して、図示の各構成要素は機能概念的なものであり、必ずしも物理的に図示の如く構成されていることを要しない。

[0063] 例えば、金額目標管理装置 100 の各装置が備える処理機能、特に制御部 102 にて行われる各処理機能については、その全部または任意の一部を、CPU (Central Processing Unit) および当該 CPU にて解釈実行されるプログラムにて実現してもよく、また、ワイヤードロジックによるハードウェアとして実現してもよい。尚、プログラムは、後述する記録媒体に記録されており、必要に応じて金額目標管理装置 100 に機械的に読み取られる。すなわち、ROM または HDD (Hard Disk Drive) などの記憶部 106 などには、OS (Operating System) と協働して CPU に命令を与え、各種処理を行うためのコ

ンピュータプログラムが記録されている。このコンピュータプログラムは、RAMにロードされることによって実行され、CPUと協働して制御部を構成する。

[0064] また、このコンピュータプログラムは、金額目標管理装置100に対して任意のネットワークを介して接続されたアプリケーションプログラムサーバに記憶されていてもよく、必要に応じてその全部または一部をダウンロードすることも可能である。

[0065] また、本発明にかかる金額目標管理プログラムを、コンピュータ読み取り可能な記録媒体に格納してもよく、また、プログラム製品として構成することもできる。ここで、この「記録媒体」とは、メモリーカード、USBメモリ、SDカード、フレキシブルディスク、光磁気ディスク、ROM、EPROM、EEPROM、CD-ROM、MO、DVD、および、Blu-ray Disc等の任意の「可搬用の物理媒体」を含むものとする。

[0066] また、「プログラム」とは、任意の言語や記述方法にて記述されたデータ処理方法であり、ソースコードやバイナリコード等の形式を問わない。なお、「プログラム」は必ずしも単一的に構成されるものに限られず、複数のモジュールやライブラリとして分散構成されるものや、OS(Operating System)に代表される別個のプログラムと協働してその機能を達成するものをも含む。なお、実施の形態に示した各装置において記録媒体を読み取るための具体的な構成、読み取り手順、あるいは、読み取り後のインストール手順等については、周知の構成や手順を用いることができる。

[0067] 記憶部106に格納される各種のデータベース等(家計簿データ記憶部106aおよび目標データ記憶部106b)は、RAM、ROM等のメモリ装置、ハードディスク等の固定ディスク装置、フレキシブルディスク、および、光ディスク等のストレージ手段であり、各種処理やウェブサイト提供に用いる各種のプログラム、テーブル、データベース、および、ウェブページ用ファイル等を格納する。

[0068] また、金額目標管理装置100は、既知のパーソナルコンピュータ、ワー

クション等の情報処理装置として構成してもよく、また、該情報処理装置に任意の周辺装置を接続して構成してもよい。また、金額目標管理装置 100 は、該情報処理装置に本発明にかかる金額目標管理方法を実現させるソフトウェア（プログラム、データ等を含む）を実装することにより実現してもよい。

[0069] 更に、装置の分散・統合の具体的形態は図示するものに限られず、その全部または一部を、各種の付加等に応じて、または、機能負荷に応じて、任意の単位で機能的または物理的に分散・統合して構成することができる。すなわち、上述した実施形態を任意に組み合わせて実施してもよく、実施形態を選択的に実施してもよい。

産業上の利用可能性

[0070] 以上のように、本発明にかかる金額目標管理装置、金額目標管理方法、および金額目標管理プログラムは、産業上の多くの分野、特に家計簿管理に関する情報処理分野で実施することができ、極めて有用である。

符号の説明

- [0071] 100 金額目標管理装置
- 102 制御部
 - 102 a 設定部
 - 102 b 合算部
 - 102 c 確認部
 - 102 d 進捗表示実行部
 - 102 e 決定部
 - 104 通信インターフェース部
 - 106 記憶部
 - 106 a 家計簿データ記憶部
 - 106 b 目標データ記憶部
 - 108 入出力インターフェース部

請求の範囲

[請求項1]

制御部と表示部とを備え、

前記制御部は、

家計簿管理アプリケーションに登録されている複数のユーザで構成されるグループに対する、金額に関するグループ目標を設定する設定手段と、

前記グループを構成する前記ユーザである全ての構成ユーザの、前記家計簿管理アプリケーションに登録されている残高を合算する合算手段と、

前記設定手段で設定された前記グループ目標および前記合算手段で合算された前記残高に基づいて、当該グループ目標の進捗状況を確認する確認手段と、

前記確認手段で確認された前記進捗状況を前記表示部に表示する進捗表示実行手段と、

を備えたこと、

を特徴とする金額目標管理装置。

[請求項2]

前記設定手段は、前記構成ユーザに対する、金額に関するユーザ目標を設定し、

前記確認手段は、前記設定手段で設定された前記構成ユーザに対する前記ユーザ目標および前記家計簿管理アプリケーションに登録されている当該構成ユーザの前記残高に基づいて、当該ユーザ目標の前記進捗状況を確認すること、

を特徴とする請求項1に記載の金額目標管理装置。

[請求項3]

前記制御部は、前記確認手段で確認された前記進捗状況に基づいて、感情表現がデザインされたキャラクタの当該感情表現を決定する決定手段をさらに備え、

前記進捗表示実行手段は、前記決定手段で決定された前記感情表現の前記キャラクタを前記表示部に表示すること、

を特徴とする請求項 1 または 2 に記載の金額目標管理装置。

[請求項4] 制御部と表示部とを備えた金額目標管理装置の前記制御部で実行される、

家計簿管理アプリケーションに登録されている複数のユーザで構成されるグループに対する、金額に関するグループ目標を設定する設定ステップと、

前記グループを構成する前記ユーザである全ての構成ユーザの、前記家計簿管理アプリケーションに登録されている残高を合算する合算ステップと、

前記設定ステップで設定された前記グループ目標および前記合算ステップで合算された前記残高に基づいて、当該グループ目標の進捗状況を確認する確認ステップと、

前記確認ステップで確認された前記進捗状況を前記表示部に表示する進捗表示実行ステップと、

を含むこと、

を特徴とする金額目標管理方法。

[請求項5] 制御部と表示部とを備えた金額目標管理装置の前記制御部に実行させるための、

家計簿管理アプリケーションに登録されている複数のユーザで構成されるグループに対する、金額に関するグループ目標を設定する設定ステップと、

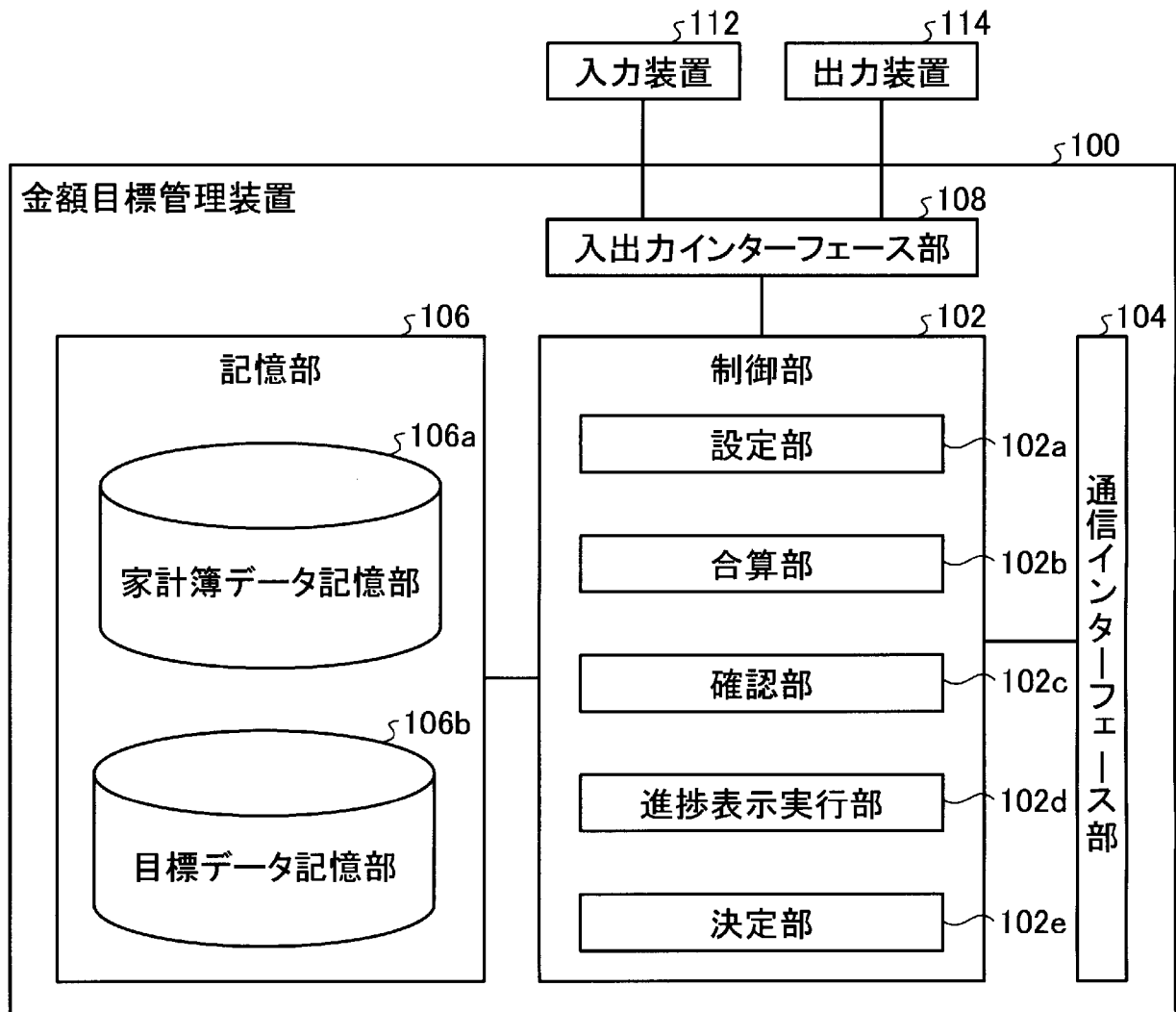
前記グループを構成する前記ユーザである全ての構成ユーザの、前記家計簿管理アプリケーションに登録されている残高を合算する合算ステップと、

前記設定ステップで設定された前記グループ目標および前記合算ステップで合算された前記残高に基づいて、当該グループ目標の進捗状況を確認する確認ステップと、

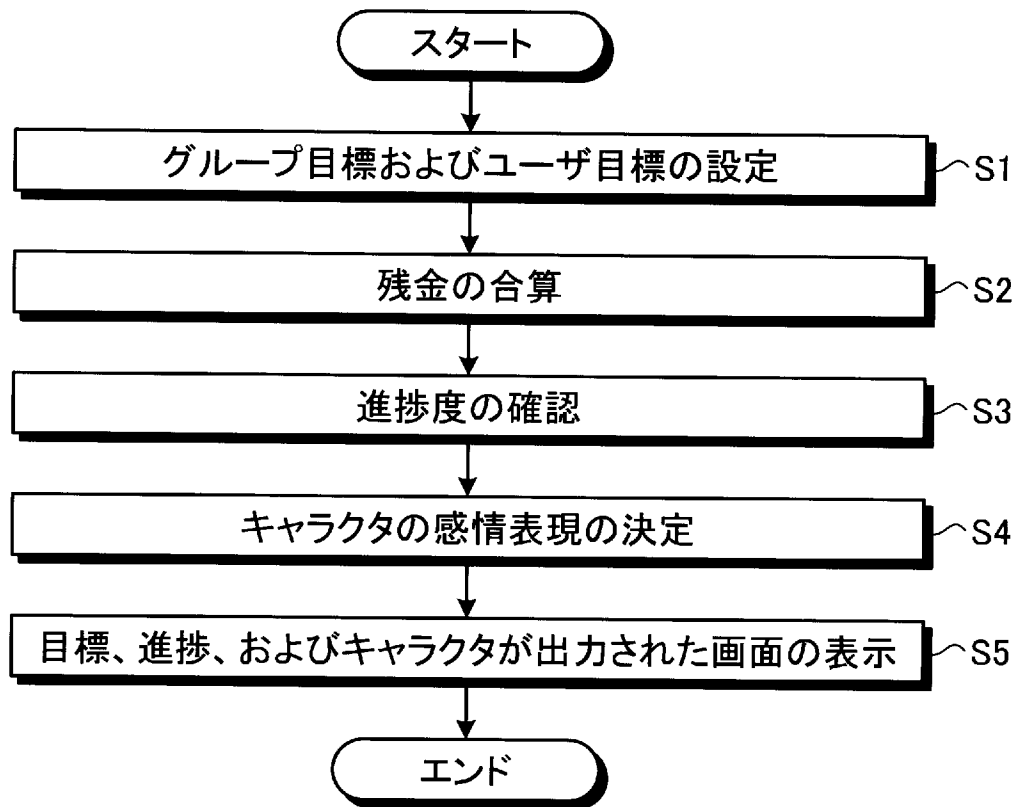
前記確認ステップで確認された前記進捗状況を前記表示部に表示す

る進捗表示実行ステップと、
を含むこと、
を特徴とする金額目標管理プログラム。

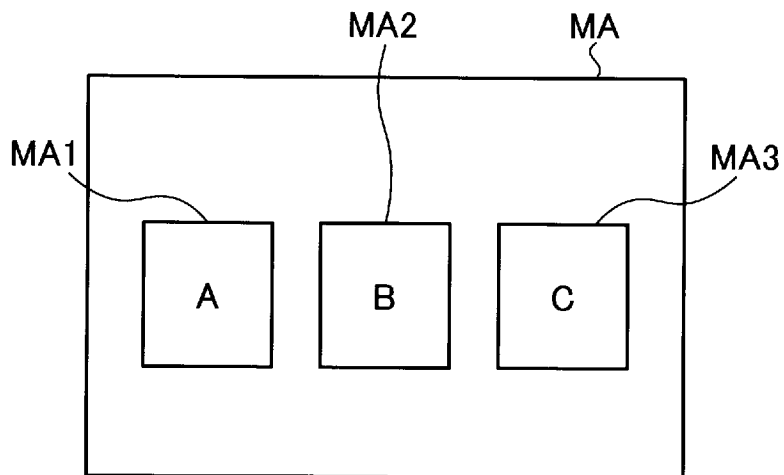
[図1]



[図2]



[図3]



[図4]

MB1

MB

△月

費目	実績	予算	残金	状況
食費	28,000	30,000	2,000	目標
⋮	⋮	⋮	⋮	
雑費	2,000	5,000	3,000	
合計	72,000	90,000	18,000	

[図5]

MC

MC1 {

家族目標金額 : 100,000円 (沖縄旅行)
 目標達成時期 : △年□月 ~ ×年○月
 (積み立て開始 ~ 終了)

分担金額 : (A)30,000 (B)25,000 (C)45,000 設定

MC2 {

(A) 😊

(B) 😐

(C) 😞

(全) 😊

今月

0 20,000 30,000

0 10,000 25,000

0 37,500 45,000

0 67,500 100,000

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2011/063401

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

G06Q10/00 (2006.01) i

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

G06Q10/00

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho	1922-1996	Jitsuyo Shinan Toroku Koho	1996-2011
Kokai Jitsuyo Shinan Koho	1971-2011	Toroku Jitsuyo Shinan Koho	1994-2011

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	JP 2008-146518 A (Oki Electric Industry Co., Ltd.), 26 June 2008 (26.06.2008), entire text; all drawings (Family: none)	1-5
A	JP 2008-262456 A (Yahoo Japan Corp.), 30 October 2008 (30.10.2008), entire text; all drawings (Family: none)	1-5



Further documents are listed in the continuation of Box C.



See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

“A” document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

“E” earlier application or patent but published on or after the international filing date

“L” document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

“O” document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

“P” document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

“T” later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

“X” document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

“Y” document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

“&” document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search
22 July, 2011 (22.07.11)

Date of mailing of the international search report
02 August, 2011 (02.08.11)

Name and mailing address of the ISA/
Japanese Patent Office

Authorized officer

Facsimile No.

Telephone No.

A. 発明の属する分野の分類（国際特許分類（I P C））

Int.Cl. G06Q10/00 (2006.01) i

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料（国際特許分類（I P C））

Int.Cl. G06Q10/00

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	1 9 2 2 - 1 9 9 6 年
日本国公開実用新案公報	1 9 7 1 - 2 0 1 1 年
日本国実用新案登録公報	1 9 9 6 - 2 0 1 1 年
日本国登録実用新案公報	1 9 9 4 - 2 0 1 1 年

国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
A	JP 2008-146518 A（沖電気工業株式会社）2008.06.26, 全文, 全図（ファミリーなし）	1-5
A	JP 2008-262456 A（ヤフー株式会社）2008.10.30, 全文, 全図（ファミリーなし）	1-5

C欄の続きにも文献が列挙されている。

パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）
「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

2 2 . 0 7 . 2 0 1 1

国際調査報告の発送日

0 2 . 0 8 . 2 0 1 1

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁（I S A / J P）

郵便番号 1 0 0 - 8 9 1 5

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官（権限のある職員）

佐藤 裕子

5 L

3 7 8 7

電話番号 0 3 - 3 5 8 1 - 1 1 0 1 内線 3 5 6 2